

令和7年度福島県きびたき寮 地域連携推進会議議事録

開催日時：令和7年11月27日（木） 13時30分から15時30分

開催場所：福島県きびたき寮会議室

進行役：次長

1 開会

進行役より、開会の挨拶がある。

2 施設長挨拶

寮長より令和7年度地域連携推進会議の開催にあたり挨拶がある。

3 構成員（出席者）自己紹介

利用者：1名、利用者の家族：1名、苦情解決第三者委員：2名、福島県ひばり寮長
きびたき寮：寮長、次長、サービス管理責任者（1名）

4 地域連携推進会議の概要説明

- ・利用者と地域との関係づくり
- ・地域の人への施設や利用者に関する理解の促進
- ・施設やサービスの透明性、質の確保
- ・利用者の権利擁護

5 施設と地域の連携について

- ・施設の概要について

主なサービスは生活介護、施設入所支援、短期入所（空床利用）

定員は、60名（原則男性30名、女性30名）

主たる障害は精神・知的障害、重複障害、高次脳機能障害

職員体制：43名 医療的ケア、喀痰吸引資格、同性介護

身体拘束ゼロ（医師の処方のもと車椅子作製し、安全ベルトの着用は実施、個別支援計画書への表示）

理学療法士他多職種連携

音楽療法、傾聴ボランティア、各種学校等の実習受け入れ

日中活動にて、個別・グループでのドライブや文化祭へ作品を出展し見学へ出掛け
ている。地域交流として地元理容組合による理髪、地域の商店を利用し飲食物や衣
料品等の購入を行っている。

6 施設内見学

利用者の日常生活の場である居住棟や訓練室などがある活動の場所について、寮長が設備などを説明しながら見学を行った。

7 意見交換・質疑応答

(1) 構成員からの意見

- ・コロナ禍により約7年間窓越し面会等で制限がされていたため、これまで居室に行って同室者との交流や私物整理等も行えていない状況だった。今日久しぶりに居室まで行き、本人と会えて良かった。
- ・同性介助の観点から男性のみの支援はどうか・・・居住環境の更なる充実、女性の温かみも必要なのではないかと感じました。
- ・身体が不自由な方は血流が悪く、特に手足が温まらないなど利用者にとってこれからの寒い時期、大変かと思われる。建物の老朽化により、浴室のサッシを二重サッシにするなど建物の老朽化対策として、今できることを早急に検討し進めてください。
- ・女子棟の催し物や飾り付け等とても楽しそうだった。
- ・廊下の床が波打っており、利用者の歩行や自走はきついのではないかと感じた。天井の修繕についても、他の箇所も落ちる危険性は高いと思う。この状況（老朽化）で生活する利用者や支援・介護する職員とも大変だと思う。
- ・建物が古く手狭な施設において、工夫されているが限度もあると感じた。
- ・職員に質問をしたところ、業務に余裕がないと話していた。人員等の問題もあると思うが、業務に余裕がないのは逆に危険だと感じた。
- ・利用者は落ち着いて過ごしている様子が伺えた。
- ・少人数でも良いため、外出の機会や家族との交流の時間を設けることで気分転換に繋がると思う。
- ・ひばり寮ときびたき寮の雰囲気の違いを感じた。きびたき寮で生活している方は身体上の理由で居室で過ごしている方が多いと感じた。
- ・利用者の皆さんは、落ち着いて過ごしており、手厚い介助が提供されているのだと思いました。
- ・きびたき寮は家族会があるため、更なる交流にむけて、場を検討してはどうか。
- ・職員の言葉遣いは気にならなかった。
- ・介助が必要な方が多い中で無断外出のヒヤリハットについて概要を知りたい。
- ・資金調達等、なかなか難しいとは思いますが、全面改修は早めに行った方が良いと思う。クラウドファンディング等知恵を出し合って建て替えが早まればと思う。

(2) 施設側からの回答と補足

- ・今年6月末まで施設を入所利用されていた利用者に係るヒヤリハットの内容や状

況等について説明を行う。

- ・外出について、リスク等配慮した上で家族には十分に説明を行っていききたい。

8 閉会

意見にあった内容で施設内で改善出来ることは速やかに直していきたい。やるべきところは改善も含め、利用者が安心して過ごせるよう努めていきたいと思います。

以上をもって、令和7年度福島県きびたき寮地域連携推進会議は閉会。